

B. 総合学習の研究

安藤富美子 石川 久美 梶原 修 川合 勇治
田中 裕巳 徳井 輝雄 長谷川 弘 三橋 一夫
安田 知加

総合学習の理論と実践

——新たな飛躍をめぐって——(その3)

1. この一年の歩み

田中 裕巳

昨年度の本紀要において、私達のグループは、高校3年生を対象とした選択科目「総合学習」の実施を前提として、総合学習としてふさわしい全体テーマとその概要をそれぞれ出しあった。テーマをもう一度確認してみると次の通りであった。

- 「科学技術と人間」(徳井輝雄)
- 「“ことば”について」(白井宏)
- 「食生活を考える」(安田久美)
- 「“差別”について」(田中裕巳)
- 「生命について」(三橋一夫)
- 「総合学習としての性教育」(安藤富美子)

白井宏は4月より四国女子大学へ転出、安田久美は3月に結婚し石川姓となった。またグループ発足以来のメンバーであった高橋祐子は退職し、新しいメンバーとして長谷川弘(国語)と安田知加(養護)が加わった。この年度がわりにこの様なメンバーの変化があったが、先の各自のテーマをたたき台として、夏休みの最後(8月29日~30日)に篠島で一泊合宿を持った。

篠島合宿では、総合学習の可能性は“一人の教師の教科実践の限界をこえる”ところにあることが再確認され、ティーム・ティーチングをめぐることが話し合われた。川合勇治は「人間とスポーツ」、梶原修は「コンピューターと原子力」、高橋祐子は「病気と健康」というテーマで構想の概略をレポートし、全体テーマを何にするかが模索された。各自のテーマを検討しあううちに、三橋一夫の「生命について」の中身をもっと充実させていけば、各自の多様なテーマもその中にほぼ位置づけうるのではないかという方向が次第に明確になってきた。11月くらいまでに、今度は「生命について」という大テーマの下で、各自のデッサンを描

きなおしてみることが決められたことが、この合宿の成果であった。

10月14日の会合では、文系選択科目として設置する場合の科目名、単位認定の方法についてまず話し合った。科目名は「総合学習」で良いであろうが、単位認定については、第1案が「総合学習」として2単位、第2案は「現社」または「理科Ⅰ」の増単、第3案は「倫理」または「理科Ⅱ」として2単位、の3つの方法が考えられた。(第1案は学則変更をとまなうから当面は不可能、第3案は社会科・理科の了解が得られないから不可ということで、第2案で行くしかないが、今のところまだどちらになるか決定はしていない。「総合学習」という超教科的科目が市民権を得る道は険しい。)その後、三橋プラン(「生命について」1. 細胞融合・遺伝子工学などの進歩 2. 生殖医学の進歩 3. 性教育の導入として 4. 性別のコントロール 5. 先天的病気の判定 6. 臓器移植と死の判定 7. 大脳操作 8. 環境問題 9. 人口問題 10. 食糧問題 11. 人種問題)の他に、「生命について」どのような問題が考えられるか、考える必要があるかという視点で、小テーマを出しあった。その時、検討されたテーマは以下の通りである。

- ・生命の誕生 ・生物の誕生 ・神話・創世紀
- ・生命の尊重 ・戦争と平和 ・自殺と殺人
- ・生きているとは何か ・発育論 ・老化
- ・人食いタブー ・近親相姦タブー ・心身論
- ・靈魂不滅説

高2を対象とした高3選択科目決定のための合同LTは、11月7日におこなわれた。徳井輝雄が教務部長としての説明の中で、「総合学習」という超教科的な

科目の設置が予定されていること、テーマは「生命について」であることを説明した。

12月初旬に、新高3選択科目の調査の結果がまとめられたが、「総合学習」の希望者は9名であった。「総合学習」はいったい何をやるのか良く分からないという生徒達の声もあり、私達ももう少し受講生があった方が良いという判断で、第2学期の終業式直前に次のような“広告”(プリント1枚)を発行し、第3学期の選択科目決定のための最終調査にむけての参考資料とした。

高2の皆さんへ

広告 高3文系選択科目「総合学習」への招待

総合学習の研究グループ

{安藤富美子・梶原 修・川合 勇治}
{白井 宏・高橋 祐子・田中 裕巳}
{徳井 輝雄・三橋 一夫・安田 久美}

過日の来年度選択科目の調査では、総合学習の選択者が9名いたそうです(その後1名減)。私たちはもう少し多いか(20名前後?)と予想していましたし、1年間授業をすすめて行く上ではもう少し多い方が活気も出るのではないかと思います。調査の際、総合学習とは何か、どういう授業をやるのかよく分らなかったという声も多いようですので、総合学習の広告を試み、選択科目でまだ迷っている人への参考資料としたいと思います。

1. 授業のテーマ 生命(いのち)について

現代ほど人間の尊厳が叫ばれながら、一人一人の人間の生命がないがしろにされている時代はないと思います。戦争でのジェノサイド(大量虐殺)を筆頭として、各種の公害や交通戦争、度重なる核実験、「いじめ」による自殺、墮胎、どれをとってもジェノサイドではないでしょうか。また科学技術の発展は、人間の生命を延命させてきましたが、反対に、生命とはいったい何なのかを鋭く人間に問う局面を色々なところに現出させています。植物人間、臓器移植、遺伝子操作、人工授精等々の問題は、生命とは何かを考えることなしに技術だけが進歩して行くとき、延命される生命のかけに、常に犠牲にされる生命がともなうことを見失ってははいないでしょうか。

科学者や技術者や強者や健全者のおごりのかげで、弱者のジェノサイドが進行しているとしたら

あらためて「人間尊厳」とは何か、生命とは何かを考えてみることは意義のあることだと思います。

2. 年間の授業計画

- ・4月～6月 講義と討論が中心
 - 生命について何が問われているのか、先生方がまず講義を中心として明らかにする。次のような問題が出される予定です。
 - ・生命の誕生(系統発生、神話・創世紀の世界)
 - ・身体としての生命Ⅰ(個体発生、成長、老化、性)
 - ・身体としての生命Ⅱ(生殖医学、性別コントロール、先天的異常の判定、臓器移植と死の判定)
 - ・精神としての生命(靈魂について、大脳操作、生きているとは何か)
 - ・生命の尊重(戦争と平和、自殺と殺人、現代のジェノサイド、法律上の生命観)
 - ・生命と労働(遊びと労働、労働の疎外)
 - ・生命の持続(環境問題、人口問題、食糧問題)
 - ・生命の共同存在(ことばの問題、ハレとケ、差別)
- ・7月～9月 各自が自分の研究テーマを決め、図書室を中心にして文献・資料を読み、まとめる。
- ・10月～12月 発表 口頭発表でもよいが、紙芝居にまとめたり、マンガにしてみたり色々な工夫をしてみよう。全員の発表をワープロを用いて本にする予定。
- ・1月 まとめとして、生命について残された問題を整理し、パネル・ディスカッションを行う。

3. 評価

試験は暗記した量よりも、「生命」についてどれだけ深く広く考えたかが分るような問題とした。評価の方法も試験の点数だけでなく、授業への取り組み方を重視したい。

4. 最後に

大学入試の受験科目の勉強には、卒直に言って何の役にもたたないだろうと思います。生物や現代社会、倫理などに若干関連のある分野もありますが、まず直接には役にたたないと思っていてくれた方がお互いに気が楽というものです。ただし

今まで習った「生命」「人間の尊厳」についての知識をじっくりまとめてみることに、人間として生きて行く上に最も大切な「生命」のとらえ方をぐっと深めてみることに、それはできるだろうと約束したいと思います。

この授業が入試の際の小論文作成に役立てば望外の喜びですし、何よりも、選択した生徒同士、そして私たち9名の教師と、1年間にわたって「生命」について考え、共同してより高い認識が得られれば、高校時代のユニークな良い思い出もなることでしょう。

私たち教師の願いに共鳴してくれる人、自分も一緒に「生命」について考えてみたいと思っている人、どうぞ「総合学習」への参加を期待しています。

理系の諸君には受講のチャンスすらなく本当に残念ですが、興味のある人はグループの教師ならだれにでも話に来て下さい。

この「広告」の効果かどうかは測りがたいが、選択希望者はその後4名増え、4月の開講時では、13名となった。

この「広告」によろやく示すことの出来た年間授業計画に従って、各自の担当分野を決定したのは1月7日であった。ティーム・ティーチングを原則とするということで、各“中テーマ”を2～3人ずつで担当し、2～3人の話し合いの上で、()内の“小テーマ”の分担を決定することとなった。“中テーマ”の担当は次の通りであった。

- ・生命の誕生……………三橋・田中
- ・身体としての生命Ⅰ……………川合・安田(石川)
- ・身体としての生命Ⅱ……………梶原・三橋
- ・精神としての生命……………安藤・田中
- ・生命の尊重……………梶原・徳井・白井
- ・生命と労働……………徳井・川合
- ・生命の持続……………徳井・安田(石川)
- ・生命の共同存在……………安藤・白井・田中

「総合学習」という科目の持ち時間上の担当者は田中・徳井であり、この2人は全ての授業に参加するのであるから、全“小テーマ”にまで責任をもつことが確認された。

第3学期を具体的な授業案づくりの期間として、いよいよ昭和61年度の4月から、高3での文系選択科目「総合学習」が開始された。既に述べたように教官側にも若干の異動があり、白井・高橋が抜け、新たに長谷川・安田が加わった。生徒側も選択の変更などがあったが、最終的には男子4名、女子9名の合計13名に落ち着いた。

4月末現在、すでに5回の授業が実施されているが「生命について」の授業案、展開・反省等については詳しくは次号で報告することにしたい。ここでは、最初の2回のオリエンテーション的な授業の様子を紹介しておきたい。

〔第1回〕4月14日(月)

総合学習のねらい、年間計画について説明

- ・総合学習とは(徳井)
- ・テーマ「生命について」の由来(田中)
「広告 総合学習への招待」を再配布
- ・テーマについてのコメント(川合、石川)

・第1学期分の授業計画配布

- 4月15日「総合学習をなぜ選択したか」(話し合い)
- 22日「生命の誕生」宇宙カレンダー、進化(三橋)……………①
- 28日「生命の誕生」神話・創世紀にみる生命の誕生(田中)……………②
- 5月 6日「身体としての生命Ⅰ」生殖、個体発生(川合)……………③
- 12日「身体としての生命Ⅰ」成長、老化(石川)……………④
- 13日「身体としての生命Ⅱ」遺伝子操作(三橋)……………⑤
- 19日「身体としての生命Ⅱ」脳死と臓器移植(梶原)……………⑥
- 20日「精神としての生命」心の悩み(安藤)……………⑦
- 26日「精神としての生命」生命の思想史(田中)……………⑧

<中間テスト>

- 6月 2日 テスト返却、中間の討論とまとめ
- 3日「生命の尊重」戦争と平和(徳井)……………⑨
- 9日「生命の尊重」自殺と殺人(梶原)……………⑩
- 10日「生命と労働」遊び(川合)……………⑪
- 16日「生命と労働」労働の疎外(徳井)……………⑫
- 17日「生命の持続」食糧問題(石川)……………⑬
- 23日「生命の持続」人口問題(徳井)……………⑭
- 30日「生命の共同性」ことば、コミュニケーション(田中)……………⑮
- 7月 1日「生命の共同性」生命のリズム(安藤)……………⑯

<期末テスト>

- 8日 テストの返却, 中間の討論とまとめ
 14日 各自のテーマ決定へ
 15日 同上

〔第2回〕4月15日(火)

この日は, 生徒たちに「総合学習をなぜ選択したか」をしゃべらせ, 生徒たちの総合学習へ臨む姿勢を問う最初の機会となった。

選択の理由としては,

- ・テーマに興味があるから 4名
- ・みんなとの話し合いが出来る 2名
- ・楽しそうだから 2名
- ・小論文などにも役立ちそうだから 2名
- ・面白そうな試みだから 1名
- ・発表力がつけられそうだから 1名
- ・漫画家になるための広い視野が欲しいから 1名
- ・先生の数が多いから 1名

などの比較的積極的理由が多かったが, 次のような消極的理由ももちろんあった。

- ・社会科などの他の科目をとる必要がないから 2名
- ・テストをやらないそうだから 2名
- また「生命について」どういう所に興味があるかを

「広告」の小テーマの中から選ばせたところ, 13名の生徒たちは次のように答えた。

- F君「生命の誕生, 神話・創世紀の世界」
- C君「神話・創世紀の世界, 宇宙の中の生命」
- I(Y)君「戦争と平和, 自殺, 差別, 霊魂, 性別コントロール」
- I(K)君「まだ分らない」
- O君「人間の心の問題」
- Cさん「まだ分らない」
- Kさん「生きているとは何か, 自殺」
- N(Y)さん「若者の自殺, 老化」
- Mさん「いじめの問題」
- Eさん「それぞれに興味がある」
- N(C)さん「神話, ことば」
- Oさん「戦争と平和, 精神」
- Gさん「先天的異常の判定, 臓器移植」

総合学習の時間を特設しての試みが考えられてから3年。高3での実施に向けての授業計画づくりが始められてから1年。そして今年からようやく「総合学習」の授業が始まった。以下に, 「生命について」を展開して行くための, 各自の分担した小テーマの授業計画を掲げたい。

2. 総合学習——生命について——の三つの授業案

徳井輝雄

① はじめに

この総合学習——生命について——の17の授業全体を貫いて流れる指導理念の一つは, 生命について多方面から学ぶことにより, 生命の尊さを深く知ることにある。自分の命は勿論のこと, 他人の命, 人間以外の生き物も含めて命あるものすべてを尊重する生命観を育てていこうとするものである。

残念ながらこの世には, その尊重すべき生命を脅かすものが存在する。この三つの授業案は, そういう尊重すべき生命を脅かすものが存在することを, はっきりと認識することを狙いとしたものであり, さらに, それぞれの授業において取り上げたテーマに関連した課題を提起し, その後に予定している, 生徒の調査・研究への動機づけをも兼ねている。

② 生命を脅かすもの

(2-1) 核エネルギーと農業

生命を脅かすものとして第一に挙げなければならないのは戦争である。戦争は人間の命を奪うだけでなく地球上の生物全体の命をも大量に奪う。とくに, 核戦争が勃発すれば, どのような事が地球上に出現するかについては, 多くの試論が出され論議されているところである。

さらには, 人間の生産活動とくに利潤至上主義や, 狭い効率第一主義の下で行われる商品生産を目的とした生産活動にともなう公害——自然破壊——が挙げられる。これは戦争とは違い, 生産というプラスイメージの下で発生し, 人々に認識されにくい状態で徐々に進行していく事が多い。また顕在化しいわゆる公害事件となった場合でも, その因果関係をめぐって利害の対立する立場からさまざまな議論がなされるという性格をもっている。そういう点からも是非取上げたいテーマである。

このように戦争と公害は, あらわれ方は異なるにせ